



公共下水道事業会計

令和2年度決算の概要について

収益的収支（3条予算） 【税抜き】

- 当該年度の企業の経営活動に伴い発生するすべての収益とそれに対応するすべての費用を計上します。

（単位：円）

	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2 予算に対する執行率
下水道事業収益	6,114,626,837	6,025,250,520	89,376,317	98.00%
営業収益	4,161,352,825	4,148,925,639	12,427,186	97.35%
営業外収益	1,842,220,944	1,856,017,955	△ 13,797,011	99.47%
特別利益	111,053,068	20,306,926	90,746,142	100.03%

	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2 予算に対する執行率
下水道事業費用	6,007,505,505	6,009,807,456	△2,301,951	96.96%
営業費用	5,585,135,725	5,579,482,720	5,653,005	96.85%
営業外費用	375,477,951	410,829,559	△35,351,608	100.00%
特別損失	46,891,829	19,495,177	27,396,652	95.74%
予備費	0	0	0	0.00%
純利益	107,121,332	15,443,064	91,678,268	—

収益的収支のポイント①

▶ 下水道事業収益

事業収入の総額：61億1,462万6,837円（前年比8,937万6,317円の増）

◎主な要因：過年度損益修正益の増加による特別利益の増加

⇒流域下水道維持管理負担金の過払い金の返還（9,942万2,368円）。

▶ 下水道事業費用

事業費用の総額：60億750万5,505円（前年比230万1,951円の減）

◎主な要因：支払利息の減少による営業外費用の減少

⇒元利均等方式で償還しているため、未償還残高が増加しない限り
支払利息は毎年減少するため（3,157万3,073円減）。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、業務委託料などを支障のない範囲で削減。

収益的収支のポイント②

▶ 収益的収支

純利益：1億712万1,332円（前年比9,167万8,268円の増）

⇒流域下水道維持管理負担金の過払いに伴う返還金が発生したことが主な要因である。

▶ 1 m³当たりの使用料単価と処理原価の比較

使用料単価－処理原価：95.93円－93.57円＝2.36円の差益

使用料単価：有収水量 1 m³当たりの使用料

処理原価：有収水量 1 m³当たりの汚水処理費用

差益が出ている

⇒汚水処理にかかる費用を使用料でまかなえている

資本的収支（4条予算） 【税込み】

- 市民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新など建設改良のための支出とその財源となる収入を計上します。

（単位：円）

	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2 予算に対する執行率
資本的収入	963,493,127	649,930,839	313,562,288	93.66%
企業債	555,900,000	339,100,000	216,800,000	92.65%
国庫補助金	97,970,000	4,250,000	93,720,000	54.20%
受益者負担金	38,494,040	26,418,230	12,075,810	115.60%
分担金	65,849,880	19,764,410	46,085,470	708.06%
他会計負担金	69,433,407	66,260,199	3,173,208	99.25%
他会計補助金	135,433,000	194,138,000	△58,705,000	100.00%
固定資産売却代金	16,500	0	16,500	1650.00%
工事負担金	396,300	0	396,300	皆増
	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2 予算に対する執行率
資本的支出	2,922,496,418	2,213,730,359	708,766,059	74.30%
建設改良費	1,735,638,147	1,020,361,569	715,276,578	63.31%
企業債償還金	1,186,858,271	1,193,368,790	△6,510,519	100.00%
予備費	0	0	0	0.00%
資本的収支の不足額	1,959,003,291	1,563,799,520	395,203,771	—

資本的収支のポイント①

■ 資本的収支

資本的収入：9億6,349万3,127円（前年度比3億1,356万2,288円の増）

⇒対象事業の増加に伴う、企業債及び国庫補助金の増加など。

資本的支出：29億2,249万6,418円（前年度比7億876万6,059円の増）

⇒污水管渠改良事業、流域下水道整備事業負担金の増加など

資本的収支の不足額：19億5,900万3,291円

※不足額の補填財源

・消費税資本的収支調整額

⇒4条収支における消費税の差額：1億1,137万8,502円

・損益勘定留保資金

⇒減価償却費など現金支出を伴わない3条費用等：18億4,762万4,789円

資本的収支のポイント②

工事の様況

汚水管渠整備事業：1,930m、6地区約26.90ヘクタール

(新河岸第9処理分区汚水枝線築造工事(その1)等)

汚水管渠改良事業：更生工事3,662m、布設替工事376m

(新河岸第8-2処理分区下水道管更生工事(その1)等)

雨水調整池整備事業：雨水貯留施設築造工事1箇所、雨水管布設工事34m

(江川第1排水区雨水貯留施設築造工事)

● 予算では、汚水管渠整備事業を2,090m、汚水管渠改良事業の更生工事を3,378m
施工予定

⇒ おおむね予定通りに事業を実施できたが、入札不調による工事の繰り越しなどの課題もある。

▶ 管渠老朽化率(法定耐用年数を超えた管渠延長の割合)：10.21%

収益的収支と資本的収支の関係 (3条予算と4条予算)

3条予算



内部留保資金

損益勘定留保資金、
消費税資本的収支
調整額

減債積立金、建設
改良積立金、未処
分利益剰余金

4条予算

資本的収入

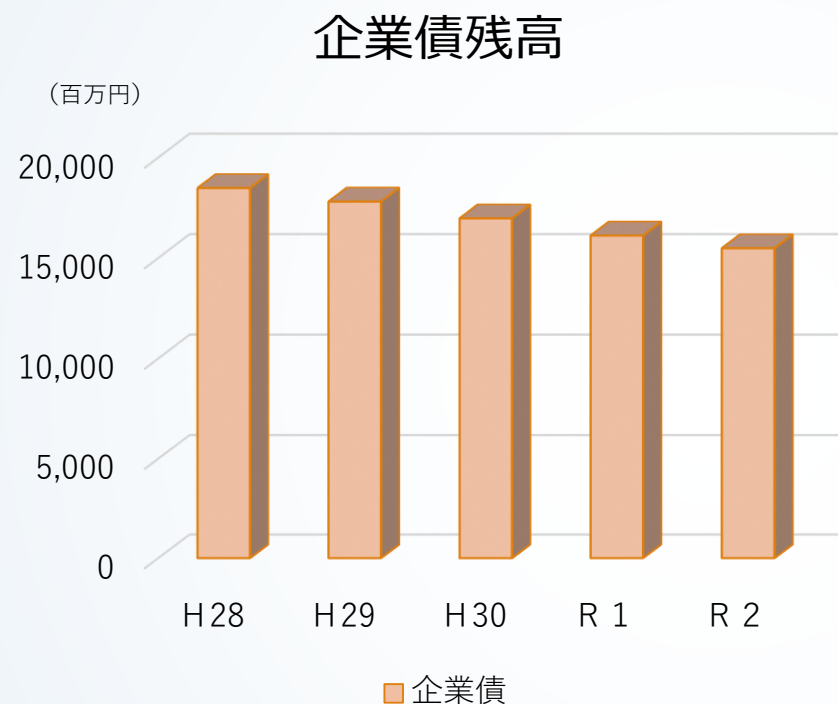
企業債、補助
金、負担金な
ど

内部留保資金
による補填

資本的支出

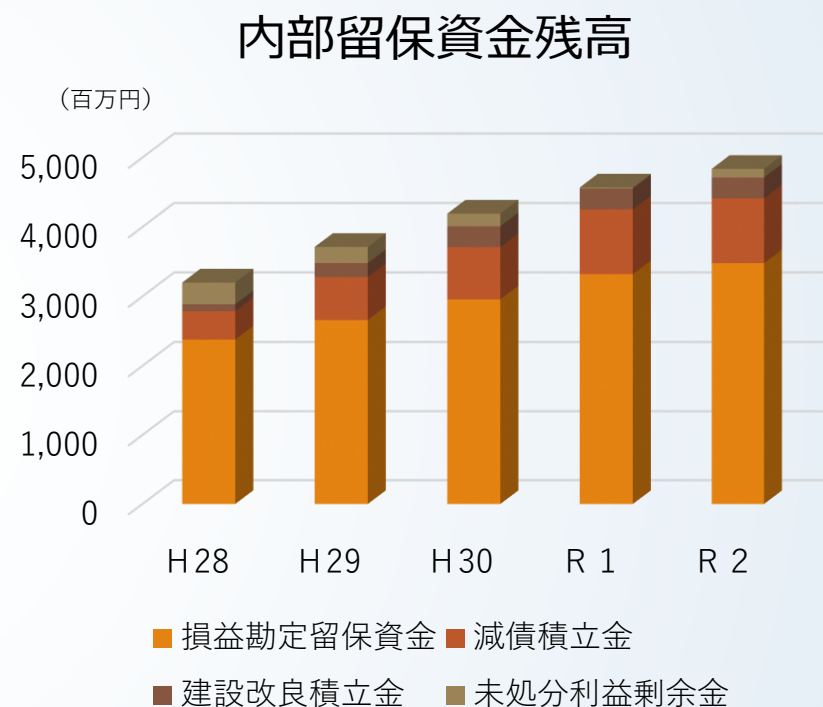
工事請負費、
企業債元金の
償還など

企業債残高と内部留保資金残高の推移



▶ 企業債残高（建設改良のための借金）

減少傾向にあり、H28からR2の5年間で約30億円減少しています。



▶ 内部留保資金残高（建設改良のための資金）

増加傾向にあり、H28からR2の5年間で約16億円増加しています。

令和2年度決算のまとめ

▶ 収益的収支

- ・ 純利益を出すことができたが、主な要因は過払い金の返還金であり一時的なもの。
- ・ 支出の多くを占める減価償却費などは削減できないものが多い。
- ・ 今後も不明水対策としての調査費や修繕費などの支出を確保する必要がある。
- ・ 恒常的な収入を確保できないと今後赤字の危険性は増大する。

▶ 資本的収支

- ・ 資本的支出の資金となる内部留保資金には、比較的余裕がある。
- ・ 安定的な経営に必要な建設改良が十分にできているか検証が必要である。